

ハウレンソウ萎凋病の低コスト防除法

【 1 成果概要】

難透過性フィルム（商品名：バリアスター）を被覆資材として用いることにより、クロルピクリン錠剤を 2 割削減しても通常の処理量と同等の防除効果が期待でき、土壤消毒コストも削減できます。

表 1 各種消毒手法の特徴と評価

被覆資材	処理薬量 (m ² あたり)	土壤中のガス 拡散の均一性	防除効果	土壤消毒 コスト	総合評価
バリアスター	8 錠				
	6 錠				~
ポリエチレンフィルム	8 錠				~
	10 錠 (慣行)				

(凡例 : 優れる、 : 有効、 : 劣る)



図 1 薬剤処理と無処理の収穫時の状況 (左: 薬剤処理区、右: 無処理区)

表 2 各種処理法における単年度のコスト試算と土壤消毒コスト削減率

被覆資材及び処理量 ¹⁾	資材費 (円)	処理量 (錠)	薬剤費 (円)	合計 (円)	コスト削減率 (%)
バリアスター 8 錠/m ²	15,650	1,600	110,400	126,050	13.4
バリアスター 6 錠/m ²	15,650	1,200	82,800	98,450	32.3
ポリエチレンフィルム 8 錠/m ²	7,500	1,600	110,400	117,900	19.0
ポリエチレンフィルム 10 錠/m ² (慣行)	7,500	2,000	138,000	145,500	-

1) 試算条件

- ・ 2 a ハウス 6 棟を 2 回に分けて (3 棟ずつ) 土壤消毒する条件である
- ・ 使用する被覆資材は 0.05mm × 300cm × 100m × 2 本
- ・ クロルピクリン錠剤の薬剤費は 4,600円/400錠
- ・ 被覆資材の耐用年数は 2 年 (4 回使用) で試算している。

【 2 留意事項】

ハウレンソウ萎凋病に対するクロルピクリン錠剤の農薬登録は 10 錠/m² (平成 21 年 1 月 20 日現在) です。

【 3 効果】

ほうれんそうの安定生産につながります。

【 4 適応対象】

農業普及員等の指導者等